

県内病院における リハビリテーション提供体制現況調査 (平成28年度実施)

1. 調査目的

今後、高齢者人口の割合が増加することとあわせて、認知症や運動器疾患、がん等の疾患に罹患する人の増加に加え、発達障害、高次脳機能障害といった障害のある方も増加することにより、リハビリテーションを必要とする人の増加が見込まれています。

そこで今回、県内のリハビリテーション提供体制における現状や課題を明らかにするとともに、関連専門職の役割や県立リハビリテーションセンターのあり方について検討するための基礎資料とするため調査を実施した。

2. 調査方法

県内の病院57カ所の病院長宛てにアンケート調査票を送付し、アンケートの回答を依頼し、同封している返信用封筒にて郵送で返信いただいた。なお、返信をもって同意を得ることとした。（*アンケート内容については別添参照ください。）

3. 調査期間

平成28年7月15日(金)～平成28年7月30(土)の15日間

✓リハビリテーション提供体制現況調査

方法 : 滋賀県内57箇所の病院への質問紙調査

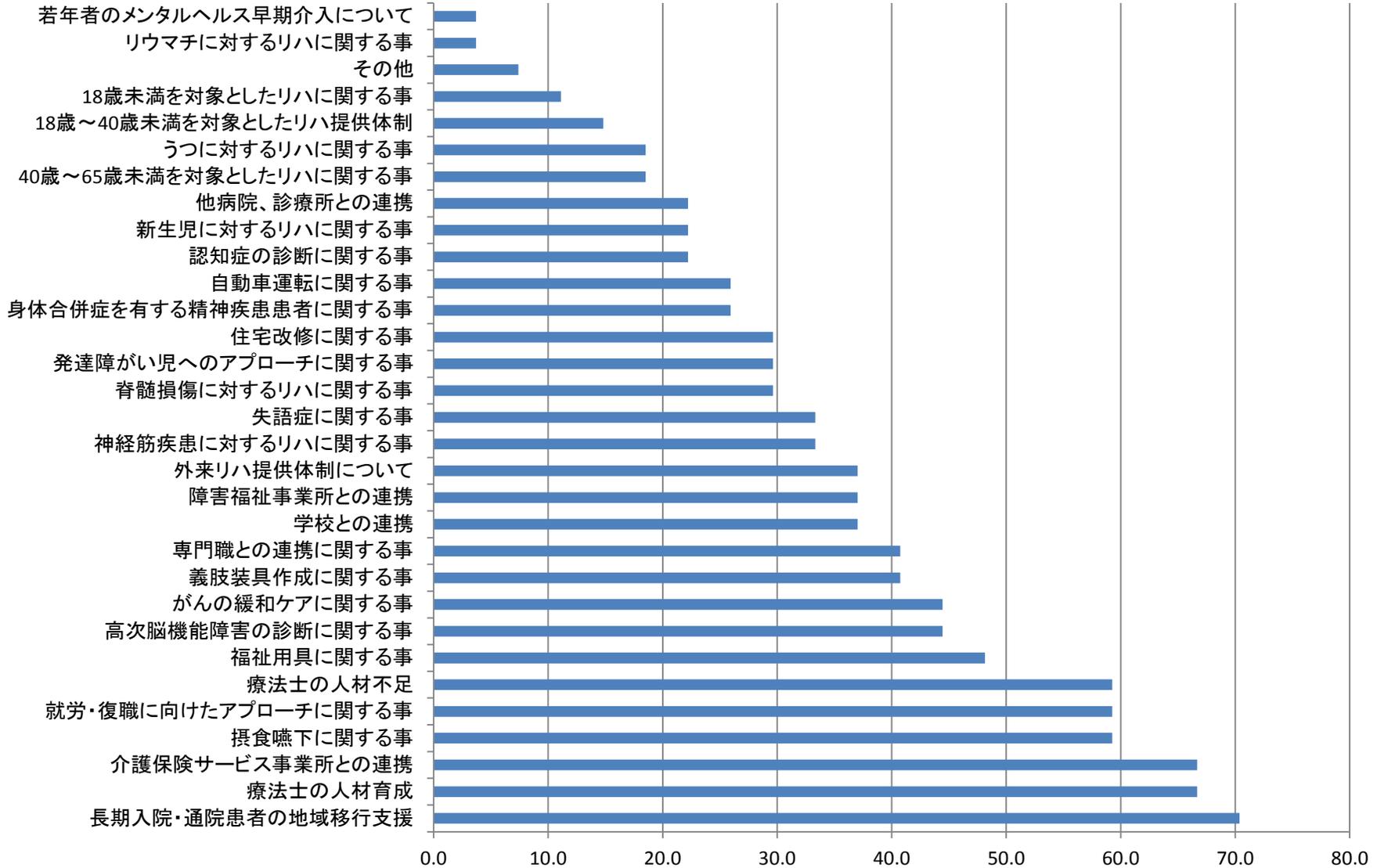
期間 : 平成28年7月15日～平成28年7月30日

回答率: 47.4% (27病院)

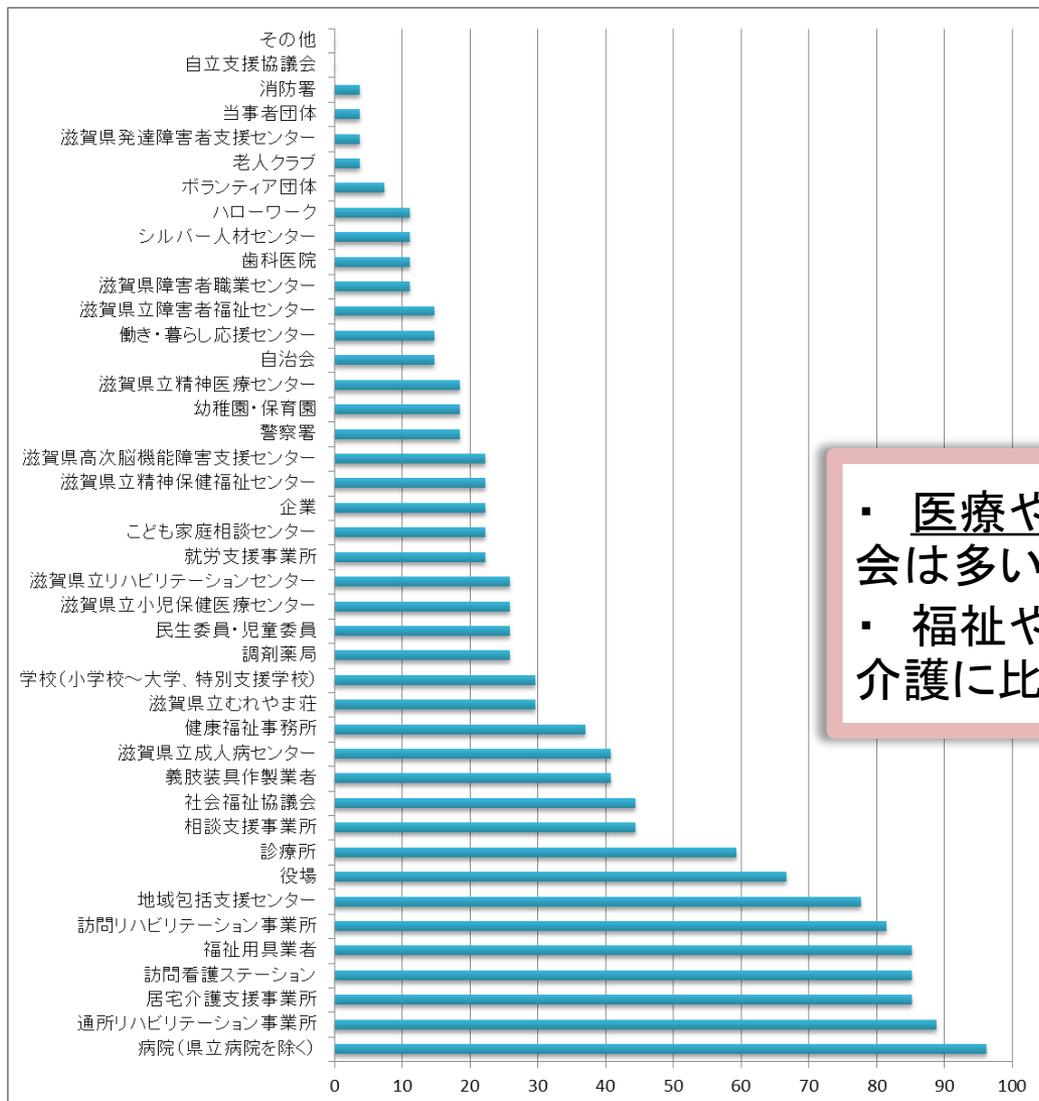
回答した病院の有する病床機能

病床機能	回答数
急性期 _{病床}	18
回復期 _{病床}	14
地域包括ケア _{病床}	10
療養 _{病床}	13
精神科 _{病床}	5
その他	3

✓ リハビリテーション提供時に課題と感じていること（選択式 単位：%）



✓ 退院・転院する際に連携した機関 (H27. 4. 1~H28. 3. 31の期間) (選択式)



- ・ 医療や介護に関する機関との連携機会は多い
- ・ 福祉や職業領域との連携機会は医療・介護に比べて少ない

✓ 他機関との連携時に困ること(自由記載)

- ・ 会議等のスケジュール調整の困難さ
- ・ リハビリテーションに関する共通理解の難しさ
- ・ 情報共有の難しさ
- ・ 地域生活移行が困難な方々への支援
- ・ 入院前の生活歴などの情報把握 など

- ・ 情報共有を行う為の日程調整に困難さを感じている

✓ 専門職の配置状況 (一施設平均人数) (N=27)

	常勤(人)	非常勤(人)
リハビリテーション科医師	1.4	0.15
理学療法士	17.9	0.21
作業療法士	8.0	0.39
言語聴覚士	3.0	0.19
臨床心理士	0.48	0.11
医療ソーシャルワーカー	2.9	0.04

✓ 専門職の保有資格

資格名	人数	施設数
リハビリテーション専門医	14	9
リハビリテーション認定臨床医	7	5
認定理学療法士	17	7
認定作業療法士	1	1
認定言語聴覚士	0	0
専門理学療法士	3	3
専門作業療法士	0	0
呼吸療法認定士	55	11
糖尿病療養指導士	14	5
心臓リハビリテーション指導士	10	3
精神保健福祉士	20	6
社会福祉士	64	13
介護支援専門員	49	13
健康運動指導士	0	0

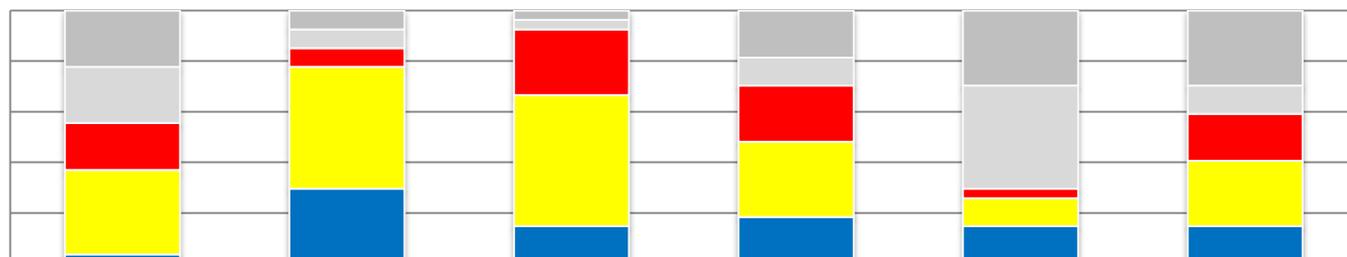
* ここでのリハ専門職は

リハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカーとしています。

* 非常勤の数字は、1を常勤とした数字を記入いただいています。

✓ 専門職の充足感

100%
80%
60%
40%
20%
0%



	DR	PT	OT	ST	CP	MSW
■ 空白	22.2	7.4	3.7	18.5	29.6	29.6
■ 不明	22.2	7.4	3.7	11.1	40.7	11.1
■ かなり不足	18.5	7.4	25.9	22.2	3.7	18.5
■ 少し不足	33.3	48.1	51.9	29.6	11.1	25.9
■ 足りている	3.7	29.6	14.8	18.5	14.8	14.8

- ・ リハ専門職の充足感は理学療法士が最も高い（29.6%）
- ・ 作業療法士の充足感は、“少し不足”・“かなり不足”で**77.8%**を占める

✓ 提供経験のあるアプローチ (H27. 4. 1~H28. 3. 31の期間) (選択式)

